

血液内科の紹介

血液内科では急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの血液がんやいろいろな種類の貧血(鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、悪性貧血、溶血性貧血など)、骨髄増殖性腫瘍(真性多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症)、骨髄異形成症候群、血小板減少症、血液凝固異常症などのさまざまな血液疾患を診療しております。

血液がんは年々増加していますが、抗がん剤や放射線治療の有効性が高く、急性白血病や悪性リンパ腫は治癒が期待できる代表的ながんです。

入院病床は42床(無菌病床4床を含む)ありますが、血液がんの患者さんが多数を占めており、これらの患者さんに対し、抗がん剤による化学療法を中心として造血幹細胞移植や放射線治療を適宜組み込んだ治療を行っています。

血液疾患には難しい病気が多く、治りづらいという印象をもたれる方が多いと思いますが、最近では新薬の登場や治療法の改善により、治療の進歩が著しい分野になっています。実際に慢性骨髄性白血病では長期生存が得られるようになり、悪性リンパ腫では治癒する方が増えており、多発性骨髄腫では生存期間が延びています。今後もさらに治療成績が向上していくことが期待できます。

当科の医師は4名おり、うち3名は血液疾患に精通し、症例経験豊富な日本血液学会認定血液専門医であり、かつ造血幹細胞移植に詳しい造血細胞移植認定医でもあります。毎週一人一人の入院患者さんについて全員で治療方針の検討を行っています。また原則として病名を告知して十分に病状を説明し、納得していただいた上で科学的根拠に基づいた治療を受けてもらうことを基本方針としています。

動悸、息切れ、めまい、顔色が悪いなどの貧血症状がみられたり、原因不明の発熱、寝汗、体重減少、リンパ節の腫れなどの症状や出血しやすい、血が止まりづらいなどの症状がみられる場合のほか、健康診断などで白血球、赤血球、血小板の数値に異常がみられた際には当科外来を受診して下さい。